

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部4年

参加プログラム: The Environmental Leadership Program 派遣先大学: カルフォルニア大学バークレー校

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

University of California, Berkeley はオークランドに本拠地を置くカルフォルニア大学のキャンパスの一つで旗艦校です。

東海岸の ivy league に対して public ivy と呼ばれています。

私が参加したコースは College of Natural Resources の開催でした。

参加した動機

以前から環境問題に興味があり、大学院で環境学を専攻することも考えているため、環境学を体系的に学ぶ良い機会だと思い応募しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

通常の IARU GSP の応募書類の他に UCB への応募をオンラインで行う必要がありました。私はその点に気がついていなくて、交流課の方や急遽推薦書を書いて頂いた先生等様々な方に迷惑をかけてしまいました。学内の募集要項やホームページだけでなく、IARU の公式ホームページもきちんと読みましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは必要なく ESTA で入国できました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

1ヶ月分の保険をインターネットで購入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

このプログラムの参加のために特別な学習はしませんでした。以前から語学は好きでなるべく多く触れるようにはしています。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

東大の課題を残して出発してしまい、両立が体力的にきつかったです。1ヶ月ほど穴があく分出発前になるべくすべてにきりをつけて、留学中は留学に集中できるようにするべきでした。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

8:30-10:00 Lecture 1

10:30-12:00 Lecture 2

13:30-15:00 Lecture 3

15:30-17:00 Lecture 4

18:00 -18:45 Reception(夕食)

18:45-20:15 Panel Discussion

という構成の日が多かったです。

とにかく密度が詰まったスケジュールだったので体力的に大変でした。リーディングの予習と、週に1回のレポートが課題でありました。

授業の内容は水処理や農業、エネルギーについての技術的なものから、自己理解やリーダーシップに関わるものまで多様でした。

印象に残っている内容は、IDEO という企業による Human-centered design というものです。相手が求めるシステムを創り上げるための方法について学びました。

Geo-engineering のディスカッションも先進国/発展途上国等も立場の違いが露骨にでてとても面白かったです。

### ②学習・研究面でのアドバイス

実際に国際機関で働いている社会人の参加者がほとんどなので、発言や発表をすることに少し引け目を感じることもありました。学生の参加者はそのような中でも自信を持って人の前で発言する勇気を持つことが大切だと思いました。

### ③語学面での苦労・アドバイス等

35カ国から参加者がいたので、お互いになまりが激しくて、非ネイティブどうしのコミュニケーションが大変でした。よく broken English でも構わないという話をききますが、綺麗な英語を話せることはコミュニケーションを円滑にするためにとても重要だと痛感しました。

### 生活について

#### ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

種類:寮

家賃:参加費に含まれていました。

宿舎の様子:夜は静かで過ごしやすかったです。

#### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:予想以上に朝晩が寒かったです。半袖のTシャツしかもっていなかったため、現地で厚手のトレーナーを買い足しました。

大学周辺の様子:学生街で、必要なものは一通りそろいますが...プログラムが忙しく20:30ごろまで続く日がほとんどで、お店は遅くとも20:00には閉まってしまうので、買い物は大変でした。

交通機関:寮から地下鉄の駅まで15分ほどでした。授業の教室には徒歩でいけました。

食事:寮の食事でした。

お金の管理方法:現金とクレジットカードを利用しました。100ドル札は使いづらいため両替の際に20ドルでもらうと良いと思います。クレジットカードは向こうでカード番号を取られて不正使用され、カードが使えなくなりました。限度額は高すぎないようにすること、複数回持つこと、管理に気をつけること(といってもどうすれば良いのかわかりませんが。。読み取りの機械に変な細工がされていないかカードを挿入する前に確認する等。)が大切かもしれません。

#### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

留学先の治安:大学のキャンパス内の寮だったのでとても静かで治安はよかったです。

医療機関:受診しなかったためよくわかりません

健康管理:私を含め多くの参加者が何故かおなかを壊していました(笑)気温差の激しい気候と食事の変化、とてもハードなスケジュールなど原因ではないか思います。

#### ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:12万円

授業料:\$45,00

教科書代:0

家賃:0

食費:\$50

交通費:\$30

娯楽費:\$100(日曜日×3回)+プログラム終了後の旅行代

#### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO:8万円

Friends of UTokyo:\$3000

#### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

月~土の朝から夜まで基本的に授業、フィールドトリップ、レセプション等の予定が組まれていて、ほとんど自由時間はありませんでした。UCBのスケートチームの練習にまぜてもらったり、オペラをききに行ったり、また去年UCBから東大に来ていた学生と遊びに行ったりもしました。

### 派遣先大学の環境について

#### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とても良かったです。

#### ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は利用できませんでしたが、寮のパソコンとプリンタは使用可能でした。

また学内のWiFiも使用できました。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

様々な分野の教授、様々な国の参加者と交流することで、新たな考え方に触れることができ視野が広がりました。普段は工学部で学んでいるためか、私は技術的な側面を環境問題をまず思い浮かべることが多いのですが、実際に対策を実行に移す際にはたとえ技術的な問題が解決したとしてもたくさんの国際問題、倫理的問題が絡むのだということ学びました。また政治や経済についての授業もあり新しい分野を学ぶことができ楽しかったです。英語については、まだまだ「もっと英語ができればより深く議論できたのに」と思うことも多く、もっと英語力を高めたいと強く感じました。

### ②参加後の予定

学んだことを卒業研究や今後の勉強、進路に生かしていきたいです。

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

特に環境問題に関心のある学生にとっては、様々な国、機関で実際に仕事をしている参加者と交流することができるとても良い機会だと思います。

## その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありません

### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

